

第6学年 研究授業実践報告

令和8年度 研究主題

自ら学習を調整し、学び進める児童の育成
～「なぜ?」「どうして?」を引き出し、問いをつなぐ学びのデザイン～



6年生の目指す児童像

目的に応じた問いを設定し、
描写と登場人物の心情を関連させながら読む児童

国語科

『帰り道』学びのデザイン

「内容や表現に着目して読み深めよう」

時	従来の単元指導計画
1	学習材を読み、「問いをもとう」や「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。
2	「律」と「周也」の心情や関係の変化を考える。
3	「律」と「周也」の人物像を考え、交流する。
4	印象に残ったことについて考えをまとめる。
5	考えたことを伝え合い、学習を振り返る。



時	「問い」を中心とした単元デザイン
1	○鬼目線で描かれている『桃太郎』を読み、視点が変わることによって物事が違って見えたり、順序によって受ける印象が変わったりすることに気付く。 ○内容面や文章の書かれ方に着目して感想を書く。
2	○学級全体で問いをもつ。 ○「律」や「周也」の言葉に対する思いを読むために、何に着目して読むかを考える。
3	○登場人物の行動や会話から迫る問いを一覧から選び、解決する。 ○自分の設定した問いを評価し、次時の問いを決める。
★ 4	○情景描写から迫る問いを一覧から選び、解決する。 ○自分の設定した問いを評価する。
5	○律と周也の後日譚を書く。 ○単元を振り返り、感想の手引きを基に学習感想を書く。

(★は研究授業本時)



成果

- ・何度も出てくる言葉に着目することで、その言葉の認識の変化に気付くことができた。
- ・自分で決定した問いが満足のいく解決に至らなくとも、評価・省察で自分の学びを分析し、問いを更新し、よりよい学びを求めていく姿が見られた。
- ・問いの分類一覧や本時でどの問いを誰が選択しているかを可視化することで、交流する相手を自分で決めて活発に意見交流が行われていた。



課題

- ・問いを設定する力には個人差があるため、個々の問いの中でつながりを見つけていくことが難しかった。
- ・情景描写に絞った問いを扱ったが、描写と登場人物の心情が結び付いていない児童もいた。
- ・扱う問いの量が多く、着目した言葉に対して解釈を話し合う時間が十分に確保することができなかった。